

2025年度（令和7年度）
第3回福山市廃棄物減量等推進審議会 議事概要

1. 日時等

日 時 : 2025年（令和7年）11月6日（木）
10:00～12:00

場 所 : 福山商工会議所1階 102会議室

2. 出席委員

長谷川良二 会長、津田将行 副会長、安倍義弘 委員、植村二三子 委員、大園哲也 委員、
川上富美子 委員、客本牧子 委員、後藤学 委員、小林洋造 委員、芝田全弘 委員、
妹尾和威 委員、田和草太郎 委員、橋本敬治 委員、藤井伸哉 委員、前田美都子 委員、

3. 欠席委員

沖和真 委員、園尾俊昭 委員、宮地毅 委員

4. 議事

- (1) 数値目標（案）について
- (2) 取組施策（案）について
- (3) 各種実態調査結果について
 - ア 市民及び事業者アンケート調査結果
 - イ 自治体調査結果
 - ウ ごみ組成調査結果
- (4) その他

5. 議事要旨

- 事務局より、委員定数の半数以上が出席していることが確認された。
- 会議は公開で行われた。
- 事務局より、配布資料に基づき次のとおり説明を行った後、質疑応答を行った。
 - ・「数値目標（案）」、「取組施策（案）」
 - ・「市民及び事業者アンケート調査結果」、「自治体調査結果」及び「ごみ組成調査結果」

(意見の概要)

数値目標(案)

○現在、リサイクル工場が火災で休止中となっているが、10年後のリサイクル率の数値目標の達成は可能な見込みか。

⇒リサイクル工場の復旧方針を検討するとともに、10年間でリサイクル率を上げる取組を行っていく予定である。

○事業系の燃やせる粗大ごみ排出量が、2024年度（令和6年度）に急増した原因は何か。また、将来予測値は2024年度（令和6年度）から横ばいとしているが、予測の精度に問題はないか。

⇒事業系の燃やせる粗大ごみ排出量が急増した原因は明らかになっていないが、要因としては、2024年度（令和6年度）から稼働を開始した福山ローズエネルギーセンターにおいて、施設への直接搬入の日曜日受入を月1回から毎週へと変更したことが考えられる。なお、将来予測に関しては、2024年度（令和6年度）の排出量を最大値と予測し、推計した。

○汚水衛生処理率の増加要因は、人口減少か。また、下水道供用区域は拡張しているのか。また、建築物の新設時には、水洗化が条件となっているか。

⇒汚水衛生処理率の増加要因のひとつは、都市部以外の人口減少である。また、下水道供用区域は少しずつ整備を進められており、建築物の新設時には水洗化が条件となっていると聞いている。

取組施策(案)

○芦田川の清掃活動を行っていると、小型家電や自転車等が不法投棄されているが、不法投棄の量を把握しているか。また、どのような対策を検討しているのか。

⇒不法投棄の量について、芦田川の管理者は国土交通省であるため福山市は把握していない。福山市としては、市内一斉清掃等の市全体での取組を続けている。

○ごみ分別を含め環境啓発について、外国人向けに全ての言語への対応というのはできないと考えられるため、やさしい日本語バーションの作成を検討してはどうか。

⇒ごみの収集カレンダーを10か国語で多言語化している。こういったものがあることを、いろいろな機会を捉えてお知らせていきたい。また、やさしい日本語のほうが伝わりやすいとの意見もあるので、検討していきたい。

○草・剪定枝等の資源化について、メタン発酵を検討するのか。

⇒福山ローズエネルギーセンターでの焼却及び焼却熱を利用した発電を継続するとともに、新たな資源化方法については、メタン発酵や炭化等の事例を調査し、実現可能性を検討する。

○使用済小型家電の資源化の拠点回収について、どこでどのように回収する計画か。

⇒現在は、市役所本庁舎の廃棄物対策課や市内4か所の環境センター及びリサイクルプラザでの回収を行っている。

○最終処分場に関して、焼却灰の全量資源化により最終処分量はどの程度削減されたのか。
⇒これまで3つの焼却施設と1つのごみ固形燃料工場で処理しており、現在は1つの焼却施設で処理していることから一概には言えないが、2024年度（令和6年度）は約14万tを焼却し、発生した焼却灰など約1.4万tを全量資源化した。

○休止施設の解体等について、具体的な内容を記載したほうが良いのではないか。
⇒検討する。

市民及び事業者アンケート調査結果

自治体調査結果

ごみ組成調査結果

○アンケート調査結果のうち「市によるごみに関する情報提供」について、市民の満足度は向上したものの、事業者の満足度が低下した理由は何か。また、どのような対策を検討しているのか。
⇒満足度が低下した要因としては、紙ごみのリサイクルなど変化があった施策に関する情報提供が十分でなかったことが挙げられる。対策としては、情報提供を充実させ継続する。

○自治体調査結果を踏まえ、現時点において福山市で実施した方が良いと判断するものはあるか。
⇒市民にとって、家庭ごみの単なる有料化は受け入れ難いと考えているが、粗大ごみについては、少しのお金がかかっても軒先まで取りに来てもらった方がよいとの意見もあり、粗大ごみの戸別収集・有料化については、今後も研究・検討していく必要があると捉えている。また、商品プラスチックの資源化は、リサイクル工場の復旧方針と合わせて検討する。

○ごみの組成は、毎年どのような基準でどのように把握しているのか。
⇒家庭系ごみは、毎年同じごみステーションから採取して調査している。事業系ごみは、スーパーマーケット、オフィス、ホテル等から排出されるごみを調査している。調査するごみ量は多くないが、概ね同じ場所・事業所のごみを調査していることから、傾向が把握できると考えている。

○ごみ組成調査結果の紙類の割合について、紙類の分別収集を開始した影響なのか2022年度（令和4年度）に減少したものの、以降は増加しているが対策を考えているか。また、ピットごみの調査は行わないのか。
⇒紙類について、雑がみもリサイクルできるよう考えていきたい。紙おむつは近隣に資源化業者がいないのが現状である。また、ピットごみの調査については、本日報告した調査と目的は異なるが、バイオマス比率の把握等を目的として調査を行っている。

○ごみ組成調査結果によると、現在の厨芥類の割合であれば、焼却して発電していることは良いことだと考えられる。このことを計画内に上手く表現する必要があるのではないか。
⇒焼却は最終手段と考えている。フードロス等に取り組むことで、ごみの総量を減らすことが、コスト

や環境負荷の低減、環境意識の醸成にも繋がっていくので、頑張っていきたい。

○ごみ組成調査結果によると厨芥類が多いことから、処理方法として堆肥化は考えているか。

⇒安定的にリサイクルを継続するため、処理コストや堆肥の需要も含め、福山市に見合ったリサイクルの手法を考えていきたい。

以 上